

代理出産問題を、どうお考えですか？

ある若者から次のような問い合わせメールがあった。

【 向井亜紀さんの会見みましたか？

日本って不思議ですよ。。。 少子化×少子化と騒ぎ・・・

現代の女性は（まれに男性も）不妊症に悩み、不妊治療を続けて望めない人もいる。。。

それでも、子どもが欲しいと願い、代理出産をと希望するも、実際に産れた子どもとは親子と認められない。

代理出産だからこそ、認められないのか。。。

最終手段が『代理出産』しか方法がない夫婦にしたら、考えざる終えない結果だっただろうなあ～と朝、ニュースを観て思いました。

最高裁の決定も、違和感がある判決でした。

阿部さんはどう思ったかなあ～と聞いてみたくなりました。 】

取り敢えず、次のように返信した。

【 法的問題点はよく理解していませんが、生まれてくる子どもの視点から、ちょっと首をかしげています。

子どもが欲しい、子どもを育てたいということなら、里親制度等の方法もありますよね。

当 HP の記事（「雑学BN」のマスコミ等コメント関係（Ⅲ）P、2006.03.22. 「赤ちゃんポスト設置問題を、どうお考えですか？」：参照）で触れたように、精子提供で生まれた子どもが、成人してから苦悩するケースもあるよう。生まれた子どもは一つの人格ある存在ですので、苦悩もあるでしょうね。

「親になることは易しい。親であることは難しい。」というように、子どもの先々の気持ちまで産めませんよね。

また、外国では代理出産した女性が「わが子」と言い出し、裁判になり代理出産の女性の子どものと認定された判例もあるよう。

代理出産の女性も一人の人格者。自分の中で育つ子どもを実感すれば、ありえる心境と云えるかも……。

加えて、今日、代理出産を引き受けてくれるボランティア募集を始めるとの Dr の会見報道も。

正直、生命誕生問題に纏わるこの問題が、そこまで国民の間で広く、深く論議・検討されているのかと危惧を抱き、「ちょっと待ってよ」と云いたくなる。

こうしたことを考え合わせると、「自分たちの DNA を持つ子どもでなくっちゃあ」という根拠が、現段階では今一よく理解できないでいます。 】

阿部幸泰

（2007年4月13日 記）

追伸：いただいたコメントは、2Pから貼付していますので、ご覧ください。

「代理出産問題を、どうお考えですか？」へのコメント

②代理母については、人の欲求の深さを感じます。

子どもが産めない、産みたい！という欲求をどこまでも実現していく。これって、どうなの？と思います。

ここでも、子どもの気持ちはどこへ？なんですよね。

子どもがいない夫婦もいますし、養子をもらう夫婦もいます。

自分の欲求をどこかで折り合いを大人がつけることって必要なのでは？と感じています。

①〇人も子供を産んだ私は幸せモノぐらいしか思わなかったニュースでしたが、じっくり考えて見ると深いですね。

DNAとか、血筋とか田舎になればなるほど、まだまだ～家の血とか血筋を絶やすとか 血＝DNAなのかな 婿をもらって、とか、子供が出来なければ親戚筋から子供をもらうとか 昔からの日本人の考えなのでしょうか？

どうしても、嫁の立場で物事を考えてしまいがちです。

向井さんの場合、体外受精を公にしていますよね

だから、生れてきた子供もどのようにしてこの世に生れてきたのか きちんと親から説明さてますよね。

それがその子供にとって、“自分にとっては普通の事と理解できるか？” “自分は普通じゃないと感じるか” が問題ですよ。

特に、秘密の中に出生した場合、大変なコトになるかな

親の思いをきちんと伝えられるか、それが大切のようにも感じます。

ただ、今回の件を考えると皇室問題がちょっと頭をよぎりました。

本当に難しい問題です。

と、考えているうちに私は向井亜紀さんについてあまり分からなかったのので、どのように考えているのかと思い 彼女のブログを読みました。ちょっとだけ

凄いな～との思いと、お役所はやっぱりお役所と言う思いと 〇人も自分の子供を

産んで、親として産みっぱなしだったな～と反省しました。

若者さんの質問の答にはなりません、若者さんが親になったとき、胸を張って何でも子供に言える係わりあえる親子になってほしいなと思いました。

それと、息子の友達が遊びに来ていたので聞いてみました。

自分は男だから子供をお腹の中で育てる女性の気持ちは良くわからないけど、好きな人と結婚して自分たちの分身として子供が産まれる、体外受精も含めてね

大好きな人の分身だから、もう一人の大好きな人が現れるわけで 大好きな人と同じになるようひとつひとつ手作り（手を掛けるということかな）で育てるわけで そして、大好きな人を見つけて、結婚してと考えると凄いなと思いませんか  
だから、子供は大切に育てたいと思うね。

体外受精問題は、産まれてくる子供がすべてサラブレッド化したら怖い話だよねとも

体外受精とはかけ離れてしまいましたが、私が子供を宿したとき、そして、産まれたときを思い出し、育てている今を考えたとき、息子の19歳の友達からいい話を聞いたな～と思いました。

#### ①への返信

早速、色々とお聞かせいただき、ありがとう。

> ～家の血とか血筋を絶やすなとか

「家を絶やすな」ということはよく聞きますよね。

実は、僕の母もそうした理由で、姉の嫁ぎ先の養女に入ったようです。

また、僕も母の兄（叔父）の養子に成らないかと、何度も話がありました。

僕は次男ですから、母の実家である姓を継ぐ事は、別に気にしませんでし、「いいよ」と云いました。

だからと云って、「仙台でやりたい仕事を辞めてまで故郷には帰らないよ」と云いました。ですので、この養子になる話は立ち消え。

結局、母の実家の姓は途絶えました。

まあ、こうしたことは昔はよくあったことで、養子縁組は何とも思いません。

ですから、子どもが欲しい、育てたいと思うなら、養子縁組の方法があるだろうと思うのです。

反面、どうして我が DNA に拘るのか、僕にはよく理解できません。

> それと、息子の友達が遊びに来ていたので聞いてみました。

息子さんのお友達と、こうした話し合いができるなんて、素敵なご家族ですね。

> 体外受精問題は、産まれてくる子供がすべてサラブレッド化したら怖い話だよねとも

こうしたサラブレッド化の問題に繋がり兼ねない問題を含んでいますので、僕は首を傾げたくなる訳です。

「我がゲルマン民族（DNA）こそ優秀」と主張して他民族（ユダヤ人）を抹殺しようとしたナチスの愚業について、自分たちの DNA に拘る人々はどのような意見を持っているのでしょうかね。まさか、人類に対する愚業を認知するとは云わないでしょうね。

受精卵診断の段階で、男、女の選別もされている現状もあるようです。

もし、体外受精卵で産まれた子どもが重い障害を持っていた場合、正常であれば OK で、障害があれば引き取れないというのでは、僕は認められません。

かような問題も含む問題なのです。

向井さんそのものの心情をとやかく云うつもりはありませんが、社会的にこの問題を認知するには、まだまだ議論が必要だろうと思う僕です。

恐らく、向井さんの報道の今、イエスという人は多いと思いますよ。

でも、周辺のあれこれ問題を少しでも知っている人は、現時点ではノーでしょうね。

マスコミも、もっと＋、－両方の問題まで踏み込んで報道して欲しいというのが、僕の今の思いです。

マスコミ批判を含め、もっとみんなが熟慮して欲しくて、丁度若者からの問いかけもありましたので、あえて HP にこの問題を掲載しました。

僕にできそうな事は、みなさんに熟慮を促す、それ位しかできませんものね。